

成田国際空港開港40周年

輝く未来へテイクオフ

成田国際空港が昭和53（1978）年に開港して、5月20日（日）で40周年を迎えます。これを記念して、今号では空港の歩みなどを紹介します。



ビルには「成田」「東京」の文字が並ぶ（開港当時）



開港当時の成田空港



グッドデザイン賞を受賞した第3ターミナルビル



日暮里ー成田空港を最短36分でつなぐスカイライナー



にぎわう旅客第一便の搭乗口（開港当時）

海外115都市と つながる国際空港

成田国際空港（成田空港）は、昭和53年5月20日、1本の滑走路と1つの旅客ターミナルビルから成る空港として開港しました。当初は新東京国際空港という名称でしたが、平成16年の空港公団の民営化に伴い、現在の名称に変更されました。

開港当初の乗り入れ会社は34社。その一番機はロサンゼルスから到着した貨物機で、その機体が滑走路に降り立った姿を見た空港関係者たちは、一生忘れられない感動を覚えたといえます。開港初年度の貨物量は、およそ33万トン。一日当たりの旅客数は2万2、450人という規模でした。

以降、地域の理解・協力の下、滑走路の増設や延伸、就航路線や発着回数拡大などを経て、世界でも有数の空港へと成長しました。

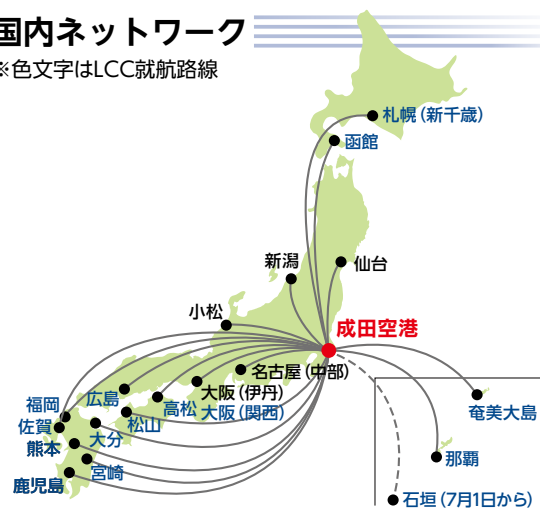
平成29年7月には航空利用客数が10億人を達成。平成30年1月には、年末年始の出入国者数が114万2、000人と過去6年で最多となりました。現在は国内外133都市と137路線で結ばれ、貨物量は開港当初の6倍、旅客数は5倍以上になっています。

成田空港の歩み

昭和48(1973)年	4月30日	A滑走路(4,000m)が完成
昭和53(1978)年	5月20日	新東京国際空港が開港
昭和61(1986)年		年間航空貨物取扱量が世界1位に
昭和63(1988)年	3月19日	航空利用旅客数が1億人を突破
平成 3(1991)年	3月19日	第1旅客ターミナルビル地下にJR、京成電鉄が乗り入れ
平成 4(1992)年	12月 6日	第2旅客ターミナルビルがオープン
平成10(1998)年	12月23日	発着回数が200万回を突破
平成14(2002)年	4月18日	暫定平行滑走路(2,180m)の供用を開始
	10月27日	芝山鉄道線が開業
平成16(2004)年	4月 1日	空港公団の民営化に伴い正式名称が「成田国際空港」に
	9月20日	航空利用客数が5億人を突破
	12月18日	年間航空利用客数が3,000万人を突破
		年間航空貨物取扱額が輸出入ともに10兆円を突破
平成17(2005)年	6月 8日	発着回数が300万回を突破
平成21(2009)年	10月22日	B滑走路が2,500mに延伸
平成22(2010)年	7月17日	成田スカイアクセス線が開業
平成27(2015)年	3月29日	年間発着枠が30万回に拡大
	4月 8日	第3旅客ターミナルビルがオープン
平成27(2015)年	6月 2日	発着回数が500万回を突破
平成29(2017)年	7月28日	航空利用客数が10億人を突破

国内ネットワーク

※色文字はLCC就航路線



数字でみる成田空港

日本編

○ 空港で取り扱う貿易品の金額

輸出 1位

111兆679億円

輸入 1位

122兆444億円

出典：東京税関「平成29年分貿易概況(確定)」

○ 航空旅客数

国際線 1位

29,574千人

国内線 6位

7,005千人

出典：国土交通省航空局「空港管理状況」(平成28年分)

世界編

航空貨物量 5位

2,083千トン

出典：成田国際空港各種データ「世界の空港・国際線ランキング」
資料：ACI統計(2016年)



平成26年からは成田市成人式の会場に



上空から見た第1ターミナル(現在)



利用客10億人達成を祝う式典(平成29年)

空港がもたらす効果

成田空港は日本の空の玄関という役割を果たすとともに、多くの経済的恩恵をもたらしています。

空港内では4万人を超える人が働いており、うち市民は37パーセントにも上ります。貨物運輸業や空港利用者のための宿泊業といった空港関連業務に従事している人も多く、空港が成田の雇用・経済の要になっているともいえます。

空港の発展に伴い、主要なアクセス手段である鉄道・道路なども整備され、地域における交通の利便性の向上にもつながっています。

平成27年にはLCC専用の第3ターミナルビルがオープン。私たちにとって空の旅は一層身近なものとなりました。7月1日(日)からは成田ー石垣線が就航し、国内19都市20空港(LCCは15都市・空港)と結ばれます(右上図)。

まちと共に発展を

多くの人に支えられて40周年を迎えた成田空港。今後も地域・世界の皆さんに愛される空港として、さらに発展していくことが期待されます。

※くわしくは空港地域振興課(☎20・1520)へ。